

RPPCメール

リサイクルポート推進協議会

第622号（平成28年4月13日発行）

【今週号の主な内容】

■《今週の報道発表》

今週の報道発表はございません

■《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 循環資源利用促進部会開催のお知らせ

■《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. JFE環境、8月から汚染土壌の積み替え保管・海上運搬事業開始
2. 大阪港北港南地区航路（水深16m）附帯施設の整備が進捗
3. 川崎天然ガス発電所3・4号増設、アセス方法書を縦覧

-----  
《RPPC事務局からのお知らせ》

1. 循環資源利用促進部会開催のお知らせ

平成27年度の循環資源利用促進部会（第2回）を

下記の日程で開催いたしますので、部会員の皆様はご参加のほどをお願いいたします。

**循環資源利用促進部会（第2回）**

日程：平成28年4月15日（金）13：30～15：30

場所：みなと総研 3階会議室

以上

【事務局】

=====

《リサイクルポートに関連する最新の情報》

1. JFE環境、8月から汚染土壌の積み替え保管・海上運搬事業開始

JFE環境は、今年8月から首都圏で発生する汚染土壌の積み替え保管・海上運搬事業を開始する。全国6か所のリサイクルポートに海上輸送して再生資源として活用する。船舶により大量一括輸送を行う事で経済的に輸送することが可能になるほか、二酸化炭素の削減にも繋がるなど、適正で安全・安心な低炭素型静脈物流システムを構築する。

同社では現在、汚染土壌の一時保管施設と運搬船舶の係留設備を横浜市鶴見区内の同社作業所内に建設中。同所を海上輸送のネットワークハブとし、汚染土壌処理施設やセメント原料化施設を有する八戸港、尼崎港、神戸港、姫路港、三島川之江港、宇部港の提携処理業者向けに海上運搬する。汚染土壌の運搬量は年間10万tを想定しており、これにより年間4237tのCO2の排出が削減できる。運営開始の8月には6隻の運搬船が入港予定で、船舶輸送会社は3社が挙げられている。本年度は15億円、3年後の2018年度には50億円の売り上げを目標としている。

【港湾空港タイムス】

-----

## 2. 大阪港北港南地区航路（水深 16m）附帯施設の整備が進捗

近畿地方整備局大阪港湾・空港整備事務所は、大阪港北港南地区航路（水深 16m）附帯施設の早期活用に向け外周護岸整備の進捗を急いでいる。28 年度中には大阪港航路に面している護岸③の締切まで進む見通しであるほか、神戸側の護岸①、及び縦方向の護岸②についても引き続き事業を進める。

北港南地区航路附帯施設は、夢洲国際コンテナターミナルの機能強化に向け、航路浚渫で発生する土砂を受け入れる施設になる。護岸①（延長 780m）、護岸②（850m）、護岸③（800m）からなっている。北港南地区航路は平成 30 年～31 年頃には水深 16m 化を達成したい意向で、それまでに外周護岸を完全に締め切り浚土を投入していく。

【港湾空港タイムス】

## 3. 川崎天然ガス発電所 3・4 号増設、アセス方法書を縦覧

川崎天然ガス発電所 3・4 号機増設計画の環境影響評価方法書が川崎市等に提出され、5 月 9 日まで縦覧されている。方法書の作成者は川崎天然ガス発電、業務受託社は東京久栄、環境総合テクノス。

事業の実施箇所は川崎市川崎区扇町 12 番 1 号。同発電所は現在、出力 42 万 kw が 2 基（1 号基、2 号基）あるが、新たに出力 65 万 kw を 2 基、合計 130 万 kw を増設する。着工から運転開始まで約 3 年を計画。3 号機は平成 30 年後半に着工し、33 年前半に運転開始。4 号機は 31 年前半に着工し、33 年後半に運転開始の予定。

【港湾空港タイムス】

#####

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司 新日鐵住金（株）

部会員：山崎 和宣 五洋建設（株）

木村 竜也 東京都

梅木 重光 （株）酒田港リサイクル産業センター

紫牟田 和隆 光和精鉱（株）

新谷 聡 りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会事務局 一般財団法人みなと総合研究財団（内）

担当：本野、井手、榎並 URL：www.rppc.jp E-mail：rppc\_jimukyoku@wave.or.jp

※会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。

開催案内等の情報をメールマガジンで配信いたします。

※メールマガジンに対する意見、要望がありましたらご連絡下さい。

※メルマガ配信先に変更がある場合は事務局までご連絡下さい。

#####